きびのさと
NO.70
月刊
第九輯 系譜篇 第一号
昭和三十五年二月一日発行（一部売り）
発行所 岡山県郡山注郡吉備町庭瀬日吉宮垣方
吉備観光協会

○ 吉備氏系譜（戦国編吉備の合戦・社地編新宮社地参照）

皇位七代 孝霊天皇 奈良県高市郡白橿村 剣池島上御陵
吉備根子彦国牽

A
御角別命
倭根子命
神櫛王
大雄命
小雄命（日本武尊）
妃 吉備穴戸武姫命
皇位十四代 仲哀天皇 足仲彦命
妃 神功皇后
皇位十五代 應神天皇 誉田別尊
（四名）

妃 倭国香媛
妃 紐某弟
倭迹迹日百々襲姫命
日子刺肩別命
彦五十狭芹彦命（吉備津彦命）
岡山県吉備郡上道郡吉備ノ中山御陵
大井大先命
妃 百田弓矢姫命
絶嗣

彦狭島命
白位十二代 景行天皇
播磨稲日太郎姫命
播磨稲日稚郎姫命
御祖皇子足迹日子命

稚武彦命
（稚武吉備津彦命）
A

吉備穴戸武姫命（小雄命の妃）
土。備。武彦命。
意加部彦命（駿河蓋原国造）
建功狭日子命（越前角鹿直祖）
稲速別（呂彦命）……山陽県下道臣祖 浅口郡笠岡屋郡地方
御。友。別。命。
仲。彦。命……上道県主道臣祖 吉備郡地方（加茂郡）
浦。彦。命……三野県三野臣祖 御津郡地方（御野、津高）
浦凝別命 苑県苑臣苑直祖 土。備郡苑田地方
鴨方命 伯耆芸県笠臣、笠朝臣祖 小田郡南部地方
呂媛（應神天皇の妃）

土。備。武彦命。
日子命（越前角鹿直祖）
日子命と同神とも。

應神天皇生年森の宮（足守）に行幸のことあり御友別命
賀食應す

○ 赤松氏系譜異記（寺院編 松林寺参照）

① 赤松則村 次郎左衛門 正四位下・元弘の乱に足利尊氏より播・摂・備前・美作
但馬の六ヶ国守護代となる。但馬国朝來郡国衙国智頭郡は本領。播磨国赤穂郡白旗山城に居る。
観應元年正月十三日 双法名法雲寺殿月潭円心大居士 享年七十二才

A
顕則 庄山城主 弓矢の神 年月不詳
満貞 持貞越後守自殺・絶家

B
義則 ③ 大膳大夫、公方家四職の一。母は佐々木道誉の女。始め播磨を領す。山名氏謀叛の時功あり備前・美作を加領す
祐尚 ④ 左京大夫、城山城主 播磨・備前・美作三ヶ国を領す。足利尊氏義教領地を割りて貞範の嫡孫貞村に與へんとす。満祐義教を弑し城山城に自害す。
嘉吉元年九月十六日 法名円福寺殿 満祐性具大居士。

C
則尚 ⑤ 左京亮・摂津・播磨守 摂津・摂山城主 享年十六歳 享徳四 年五月十三日 法名 心院殿拾奇長久大居士
敬康 嘉吉元年九月十日 嘉吉の乱又と共に城山城に自害す。
祐尚 ― 則尚 ― 則祐 ― 義稚

義稚 伊豫守 六郎 嘉吉の乱に城山城 法名大性寺殿性通四禅大居士 ― 時勝
幼名 千松丸、性存坊、播磨守、嘉吉の乱に九才、母に従い城山城を逃れて江州に走り、小谷城に再嫁す。時宗と改め僧となる。後子の政則赤松家を再興す。よって置塩倫じて時勝と名乗り播州置塩山城主となる。
延徳三年六月三日歿。法名成願寺殿性存信尊上座 ― D

則祐 ② 播磨守 播磨国赤穂郡白旗山城に居る。
観應元年正月十三日 双法名法雲寺殿月潭円心大居士

則弘 刑部大輔
男三人
則祐 ② 播磨守 播磨国赤穂郡国智頭郡は本領
貞範 紙谷守 播州庄山城主 法名 稲雲寺殿貞在大居士 歿年不詳 享年六十九才 A
則祐 播磨守 苫縄城主 應安四年十月廿九日 歿享年六十一才 法名天室林寺殿日天妙善 律師。 B
信濃守 播州大田村城主 長治の乱 敦範 C
（三木城主別所）

D

⑥ 法師丸、次郎、伊豆守、左京大夫、従三位侍従、

政則 五才の時祖父義雅の家臣石見、間島両人に擁せられて北朝に仕へ、南朝の皇胤を弑し神璽を奪還しその功によって加賀の半分、備前三ヶ保（今の三石、藤野、吉永）と出雲国宇賀庄を領す。山名氏の謀叛を滅ぼした功にて播磨、備前、美作三ヶ国の旧領を復す。姫路城に治し後ち置塩山城に移る。明應五年四月廿五日歿、享年四十二才、法名松泉院無善性雲大禪定門

⑦ 道松丸、政村、四位兵部大夫

義村 室は摂津赤松刑部少輔政資の次男 政則の嗣を継ぎ置塩山城主、後ち室津の城主に移る。永正十五年九月十六日歿 祥光院殿了堂性同大居士

⑧ 左京大夫 播磨守 時政 置塩山城主

⑨ 兵部、出羽守 義祐 置塩山城主

則房 天正八年豊臣秀吉播磨を領し一族郎黨下野し、赤松家間もなく断絶す。

上総介 置塩山城主

（元弘二年赤松則村擧兵してから天正八年則房まで十世二百四十七年）

範実 左エ門、阿波の国 加島城主一万石に移封す

○ 宇喜多氏系譜（第四輯 城址篇 松島城址・戦争篇 高松城水攻の合戦 参照）

宇喜多能家 和泉守 その先祖は異国人といい、或は南朝方の忠臣 早島、高徳の子孫とも傳へている。文明の頃 邑久郡乙子城主

興家 和泉守 天神山城主浦上宗村に仕ふ。室は邑久郡阿部善定の女

直家 三郎右エ門 和泉守 岡山城を創築す 初め浦上氏に仕へ後ち自立して備前・美作を領す。天正以后織田氏に従ふ。天正九年二月十四日五十二才歿。法名露月光珍

A

晴家

直家の室は亀山城主中山備中守の女 后室は勝山城主三能登守貞勝の未亡人（阿鮮尼）

A

忠家 左京亮 入道安心 万成山城主 大阪に歿す

基家 與次郎 天正八年三月毛利氏と戦い八浜の海浜に戦死す

成正 左京亮 詮家 初め万成山城主、関ヶ原の役の功により坂崎出羽守信顕と改め津和野城主三万石を領す 元和三年五月発狂して死す

女某 富田信濃守信高の室

男某 感應院 邑久郡大ヶ島の住職

桃寿丸 大阪にて落雷死、早世 室は貞勝の遺子

直家

女 吉川蔵人広家の室 天正十九年四月十七日歿

秀家 従三位中納言 八郎 元亀二年生る、岡山城主 豊臣秀吉に仕へ関ヶ原の役に敗れて八丈島に流謫、明暦元年十一月廿八日歿、八十三才 法名、尊光院秀月休復居士 室は加賀国主前田利長の姉

女某 赤松左兵衛督広秀の室

女某

秀規 父と共に慶長八年八月八丈島に配流

岡山城天守閣創築について

直家の家臣角南宰人を奉行とし中村次郎兵衛に命じて安土城に擬して建築せしむ複合式三重六層造にして西に副建築の塩蔵あり天守閣入口を兼たり。

天守閣は南は一間四尺、北は五間の石垣の上に構築す。平面は下層部は不規則にして上層に至るに従い正しく最上層部は正方形なり。土台より棟元まで高さ十一間一尺五寸あり全部土蔵造なるも外面に下見板を張る。

用材は和気郡藤野の龍王山より採取すという。姫路城を白鷺城というに対して烏鵲城という。

昭和二十年六月廿九日戦焼す。

○ 戸川家系譜（庭瀬、撫川）　家紋　三本枝・七九桐、丸に二引を用中。

戸川家の系譜は民間に所持するものが数種あり、いづれも大同小異である。ここでは不変院に安置している過去帳を基礎としたものを載せ、他はとらない。

定紋の三本枝の由来について傳へる所は、昔戸川家の邸宅の前に大木の老枝が三本繁茂してたので里人はこの枝を尊敬して三本枝の長者殿と稱へたということである。

伊豫王 ― 伊豫国　姓は越智氏 …… 数代 河野氏 …… 数代 稲葉氏 …… 通信 …… 通弘 …… □ ― □ ― 富川氏 正実 …… 助盛 ― 定安 玄蕃

七郎　四郎　七郎

室は長船紀伊守綱直の女

法名 稜法院殿　慶長八年庭瀬に歿

正実 字善多能家に仕へた。

戸川氏に改む

達安 主水 従五位下 常陸介、肥后守、肥前守 従五位下 常陸介 主 三万五千石 慶長三年九月六日歿、常山社殿に葬る（紫林堂）

室は石川左衛門晴清の女 寛永三年三月十日歿 法名 信城院 初め不変院に葬り後ち盛隆寺に移す（信城寺は菩提寺）

（六十三才）

秀安

達貫 主水 法名 宗覚大禪定門 元和四年八月三日歿（有故実御勘気、殺害所）

勝安 養嗣 玄蕃 助左衛門、大阪の陣に功あり後月・山田 両郡の内にて三千石所領、寛永五年三月十日歿 法名 蓮智院 始め不変院に葬り後ち盛隆寺に移す

孫六 養嗣（達安の三男なり）寛永十年八月十九日歿 法名 性徳院 無嗣絶

女 二人

達安 ミチヤス 慶長七年四月庭瀬城主 二万九千二百石 助七郎 肥后守 従五位下 寛永四年十二月廿五日歿 法名 不変院、始め不変院に葬り後ち盛隆寺に移す（不変院は菩提寺）

室は岡豊前守元忠の女（歿年不詳）

后室側女 慶長八年十月一日歿 法名 貞子院（盛隆寺菩提所）

御部屋 某女 元和三年六月廿五日 法名 即桐院

Ⓐ

五

Ⓐ ①

達安

女 花房志摩守幸次の室

女 日置内蔵助の室

女 初め堀三右衛門、後ち岡道和佐の室

女 家老戸川又右衛門延令の室 帰居後寛永二年七月四日歿 法名 正法院

女 村上次郎右衛門の室

正安 寛永九年五月廿一日歿 ②

従五位下、土佐守 延宝二年三万三千三百石 公名一斉日法居士 初め不変院に葬り後ち盛隆寺に移す 室は寺沢志摩守広高の女 元和三年九月十六日歿 法名 相老院 御部屋某女 延宝五年三月廿七日歿 法名 七奥如院

令安 ヒロヤス 隆左衛門 寛永三年 徳川家老に召され三百石所領（歿年月不詳）

達正 早世 市正 明暦三年三月十八日歿 法名 花光院

安尤 ヤスタカ 早世 島領主 馬 内蔵助 寛文八年三月四日三千三百石分知、慶安三年六月九日歿 法名 宝樹院 ― 安明 別掲

安宣 土肥左近 玄蕃 従五位下、土佐守 庭瀬藩主 延宝二年十二月廿七日歿 法名 清性院 始め不変院に葬り後ち盛隆寺に移す 室は某女 貞享元年九月十日歿 法名 清法院

弟五郎 早世

女 池田越前守の室

安成 助七郎 三次郎 左助 妹尾領主 寛文九年七月十九日 一千五百石分知 室 寛永五年十二月三日歿 法名 豪立院 盛隆寺に葬る

Ⓑ

御部屋 某女 元文二年六月廿一日歿 法名 冥慈院

正方 別掲

女 宮 寛永四年九月十二日歿 法名 一東院

女 坂崎出羽守の室

女 浮田左京の室

女 長船紀伊の室

女 角南隼人の室

六

帯江領主、手九郎、手右エ門、主膳

安利　寛文八年三月四日三千三百石分知
室は寺田治部右エ門の女
歿年月不詳

源五郎　早世
延室七年九月三日歿　法名眞如院
不喪院に葬り後より盛陸寺に移す

安吉　源兵衛、家老、五百石所領
歿年月不詳
早世

達躬
女某　家中福田忠左エ門の室

Ⓑ

安風　母は某女（妾腹）
縫殿助　延室七年十一月二日九才にて夭死
法名　天心院　戸川家嫡流絶ゆ

① 母は前に同じ
達富　五郎　摂津代　主計　玄蕃
撫川領主　定代寄合　五千石
享保十四年九月廿九日歿　法名　統義院
盛陸寺に葬る
室は本堂源七郎玄親の女　享保五年十月廿日歿
法名　眞珠院
御部屋某女　明和九年八月日歿　法名　妙証院
御部屋某女　享保元年六月十四日歿　法名　智見院
女　某　松平典右エ門の室

③ 母は某女
達恒　源九郎　内膳　明和九年八月十日歿　法名　興雲院
盛陸寺に葬る
室は毛利讃岐守政苗の女（歿年月不詳）
后室　某　明和九年一月十三日歿　法名　恵観院
御部屋　某　明和七年十一月十五日歿　法名　玉操院
七千代　早世　享保四年十月十四日歿　法名　了照院
女　早世（妾腹の子）
享保十六年五月三日歿　法名　覚夢院
三五郎　元文三年十月廿日歿　法名　眞如院
女　室暦四年三月五日歿　法名　寿学院
女　六人

源治郎　早世
宝永元年六月六日歿　法名　到岸院

久米之助　早世
享保元年四月廿日歿　法名　紅雲院

正方　戸川助七郎安貞の養子（妹尾）
母親　実母方叔父本堂源七の養子

女　某　早世
元禄十五年五月十二日歿　法名　習種院

女　某　早世
享保十年五月十八日歿　法名　青柳院

女　宝永六年七月廿二日歿　法名　浄池院

女　大岡三次郎の室
享保十三年九月二日歿　法名　高額院

於ミツ　享保十九年七月四日歿　法名　浄照院

女　室暦三年二月七日歿　法名　能持院

女　室暦十三年十二月廿日歿　法名　寿海院

女　明和三年五月四日歿　法名　花容院

女　三人（以上の女は八木主馬、三好之治郎、宇津宗女正、皆川左京、戸川伊織助、大平利部、市橋七膳、岡山藩老中一万六千石日置左門の室に夫々嫁いだが詳細は不明）

④ 母は政苗の女
達邦　鉄蔵　寛政十年七月廿六日歿　法名　円寛院
盛陸寺に葬る
室は片桐石見守貞芳の女
明和元年十二月廿日歿　法名　速成院
後室は山崎兵庫義治の女
寛政八年四月廿七日歿　法名　真観院

金次郎　妾腹の子　早世
明和六年十月廿四日歿　法名　醒夢院

源次郎　早世
明和七年二月廿五日歿　法名　玉照院

⑤
達寿　万蔵　達豪
文化九年五月十日歿　法名　覚真院
盛陸寺に葬る（墓石には「月廿日」とあり）

女　妾腹の子
明和八年七月五日歿　法名　智徳院

富三郎　早世
寛政十年二月廿五日歿　法名　了性院

⑥
義六郎　主馬助　彈正　[illegible]は常山

達義　実は相良虎之助守長寛の六男　明治七年一月廿日歿
室は氏山美隆守矢寿の女　文化十五年正月四日歿　法名　清雅院
后室は[illegible]女　某　文政三年五月十八日歿　法名　普志院
妾　於悦　弘化三年十一月廿五日歿　法名　勝善院

Ⓒ
達邦
達太郎　早世　寛政六年十二月廿九日歿
法名　芳玉院
於三千　妾腹の子　文化十四年七月十六日歿
法名　蓮如院

⑦ 実は高松藩支族松平一楽の長男、主馬助
達敏 明治廿七年十二月六日歿六十五歳
法名 淳徳院、高松に葬り後ち不変院に移す
室は達義の女 於種
明治四年十二月廿五日歿 法名 晴光院 三十九歳
不変院に葬る
后室は田村新の女 幾余子 明治廿三年六月十五日
歿 三十六歳 法名 清育院（不変院に葬る）

- 男 早世 文化十五年正月四日歿 法名 了如院
- 女 早世 文政三年六月廿日歿 法名 法性院
- 女 早世 文政五年四月廿五日歿 法名 幻体院
- 達寛 実太郎 早世 十八歳 弘化四年六月廿日歿 法名 敬徳院（原共信寺に葬る）
  母は妾、於悦
- 男 早世 文政六年十二月廿四日歿 法名 芳顕院
- 於キヤ 天保十年七月十日歿 法名 清容院
- 於種 達敏の室
- 於タキ 文政十年五月廿九日歿 法名 慈光院
- 清
- 洋子
- 正
- 寿美子

- 於種 早世 嘉永三年十一月十二日歿 法名 修真院
- 寿子 倉敷市鳥羽、小作、多吉治の妻 明治四十三年十二月廿二日歿 三十歳 法名 寂生院
- 真達 母は幾余子 明治四十年七月廿一日歿 三十四歳 法名 英智院 不変院に葬る
- 達基 早世 明治三十一年十月六日歿 紫雲院
- 武雄 実は福岡県関島定吉の長男 在東京 室は小御多喜治の長女 茂登 吉正十四年八月廿日歿 法名 瑛恵院 后室は佐賀市旅限方作の長女 愛子
- 秀夫 母は日足守藩士小野八十八の長女 津子の生 慶、慈本喜助に養子、明治三十四年十月十八日生 在大阪云
- 達人 母は茂登 大正十四年八月廿一日歿 法名 探瑛孩子
- 多賀子 母は愛子（以下同じ）昭和六年四月五日歿 法名 妙温興女
- 隆

戸川氏支流系譜

● 戸川秀安 — 達安（庭瀬藩主）

- 正安 — 二万三千石 百石所領
  - 五男 安成 妹尾始祖 寛文九年七月十九日 三千五百石分知 …… 畧
  - 三男 達富 撫川始祖 天和三年十月 五千石分知 …… 畧
  - 安宣
  - 安風 絶嗣
- 安尤 早島始祖 寛永三年三千四百石分知
  - 安明 養子
  - 安貞 …… 畧
  - 六男 安通 中在始祖 元禄十五年三月 …… 畧 四百石分知
- 安利 帯江始祖 寛永三年三千三百石分知

△ 中在戸川氏系譜

安明 ㊀歳助、早島二代
- 安通 十文衛
  - 安長 十女衛 美代子
    - 安精 ③吉藤十郎
      - 安海 ④トキ藤三郎 実は曲直瀬 養安院の医師の子
      - 安承 享年七月廿日卒 四十才 法名 誠致院
      - 女 小川長十郎の妻 後ち離別す
    - 実は保主慎の養女 室は家女
    - 実は安藤仁兵工の子 室は橋宗仙院奥医師の娘
  - 実は保主慎の養女 后文五年九月廿三日卒 法名 大信院
- 安尤 早島始祖 寛永三年三千四百石分知
- 安利 帯江始祖 寛永三年三千三百石分知

- 5 安清 文化三年従五位下大隈守 — 鉄之亟
  - 雄三郎 筑前守の庶長子
  - 指南守目付、勘定奉行
  - 書をよくす 号は安恵、字は
  - 禁連庵蓮仙という。
  - 慶應四年二月四日（ケ三才）
  - 東京、最上寺に葬る
  - （小領地にて領主は常に京都又は長崎に住し諸事は早島知行所に行っていた）（おわり）この項未完

福島精肉問屋 電話 225 番
精肉 豚肉 ハム ソーセージ
かしわ
吉備町 撫川 東町

登録 商標
とら醤油
撫川
栗原仙太郎商店
吉備局電 171 番